

2022 年度第 1 回情報教育研究委員会データサイエンス分科会議事概要

I. 日 時：令和 4 年 4 月 25 日（月）10：00～11：30

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：渡辺主査、今泉委員、西川委員、後藤委員、大原トババ、辻トババ
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. データサイエンス・AI 授業実践研究のための FD ワークショップについて

(1) 5 月に案内を出すことで、6 月に第 1 回のワークショップを Zoom（ミーティング）で開催することが確認された。

(2) 以下のような講演内容の説明と意見交換がされた。

- ・ データサイエンス・AI 関連ではどのようなものがあるのか興味を持たせ、気付きを得させる授業を行っており、モチベーションを付けさせ、その後、統計やデータ分析的な教育を進めており、導入部分に注力しているところがポイントである。
- ・ 成果物を必ず求めるのではなくリアクションペーパーにより、どこが出来てどこが出来なかったのかを記述・提出させていることで、楽しさを伝える動機付け教育を目指している。
- ・ 文系学生全員が理数系に興味がないわけではなく、入学経緯や学びの真の希望などの要因が隠れている場合もあり、学生もいろいろな多様である前提で授業を行うことを心掛けている。
- ・ Jupyter Notebook を使い、Python で課題の考察を書かせており、画像・テキスト・データ分析を全体的に取り混ぜることを考慮している。学生の背中を押すイメージで授業を考えており、その具体的な授業手順の一例を紹介してはどうか。
- ・ 取扱うデータについては、言葉の問題も指摘されるが、海外のデータダッシュボードも活用しており、Watson で翻訳させ利用している。また、AI それぞれの比較（強い AI、弱い AI、汎用 AI、特化 AI）も含めて利用している。
- ・ データサイエンス・AI 教育を通じて、例えば、ビジネスモデルに求める効果、就職に対して日本企業の実態、社会の中での位置付けが判断できれば良いと考えている。
- ・ 企業では、技能を求める傾向にあり、アメリカでは、オープンバッジ（国際技術標準規格デジタル証明書）を持っている人材を採用するケースが増えている。

(3) ワークショップの開催計画について

- ・ 設定時間は、講演 1 時間、意見交換 30 分とすることにした。
- ・ 1 回目は、6 月 30 日 17：00 から 18：30 で開催し、授業実践の全体を説明することにした。
- ・ 2 回目は、8 月 4 日 17：00 から 18：30 で開催し、授業の具体例を説明することにした。
- ・ 意見交換を継続するため Slack を利用し、そこに講演動画を 4 分割（約 15 分単位）して掲載することにした。

2. 海外大学のデータサイエンス教育実態の紹介について

- ・ 紹介ページの書き方について、委員からのまとめを確認し、タイトルは、〇〇の取り組み状況のレビューとし、「該当大学の URL によると」との表現で概要紹介をする書き方でまとめることで確認され、5 月に Web 掲載を予定している。

V. 今後のスケジュール

次回の分科会は、4 月 23 日に開催し、ワークショップの講演内容を再確認し、開催要項を確定させることにしている。